

# きらり チームほおの木

<笑顔いっぱい 元気いっぱい 夢いっぱい>

令和2年7月6日(月)

文責 伊藤 博子

## 本当にそれは無理なこと?

明日は、七夕です。昨年、子どもたちが書いた短冊を見ました。「野球選手になりたい。」「アイドルになりたい。」という将来の夢や「お金持ちになりたい。」「おいしいものをいっぱい食べたい。」という現実的な願いなど、思いがあふれていて、読んでいてとてもほえましかったです。また、「家族が健康で長生きしますように。」という短冊が多かったのが心に残りました。みんな、家族が大好きで家族を思っているのだなと思いました。

七夕の季節が来るたびに、以前担任していた子を思い出します。その子は、生まれつき両手の指が親指以外関節1つ分しかありませんでした。だから、その子が七夕様にお願いするのは毎年同じことでした。それは「早くみんなと同じように指が伸びますように。」ということでした。成長すれば、身長が伸びるのと同じように指も伸びると信じていました。そして、一生懸命頑張れば、その願いはかなうはずだと何事にも本気で取り組みました。鍵盤ハーモニカも短い指を器用に使って上手に吹きました。字もとても丁寧に書くことができました。ただ、指が短いためにできないこともありました。みんなと同じリコーダーが吹けません。指で穴を小さくすることができないからです。そこで、その子は、みんなよりも小さいリコーダーを使いました。音の高さはみんなとは違いましたが、きちんと指を使って演奏することができました。また、バットを振ると勢いはずれてしまいます。また、鉄棒もしっかり握ることができないので、すぐに落ちてしまいます。それでもその子は頑張っ様々なことに取り組んでいました。私は、そうした姿を見て、あきらめず頑張れば大概のことはできるよになるのだとその子から教えてもらいました。



「無理です。」

「できません。」

時々、子どもたちの口からそうした言葉が出てきます。もったいないなあ、と思います。やってみればできるかもしれないのに、なぜ自分で自分の可能性をつぶしているのだろうと。やってみてもできないことはたくさんあるけれど、やってみたらできることもたくさんあると思います。でも、始めからやらなかったら絶対にできるようにはなりません。

指が短いその子は、できない言い訳をしようと思えばいくらでも言えたはずですが。

「だって、指が短いんだもん。鍵盤ハーモニカ、無理。リコーダー、無理。鉄棒、絶対無理。字なんかうまく書けない。」  
と。でも、その子は、一切言い訳をしませんでした。何事もみんなと同じように頑張っていました。

人間の頭と体はつながっているのだそうです。「自分には無理。」と頭で考えると、思考が止まり、筋肉も動きが悪くなるのだそうです。やればできる力を持っているのに、自分でその可能性をせばめてしまうのは実にもったいない。子どもは可能性の塊だと思っています。自分自身も気づいていない力を、やってみることで伸ばしていきましょう。「自分には無理。」と言う前にちょっとだけ頑張ってみると、案外できてしまうかもしれません。頑張れ、ほおの木っ子。ほおの木っ子ならできる。いや、ほおの木っ子だからできる。自分を信じ、様々なことにチャレンジしていきましょう。

さて、今年、ほおの木っ子は、七夕様にどんなお願いをしたのでしょうか。

<お知らせ>

新型コロナウイルス感染症予防のため、文部科学省より、児童用布マスクが届きました。配付いたしますので、ご活用ください。